

BUSINESS FORESIGHT vol.11

IOTの本質はビジネスモデルイノベーション

IOTがでは生き残れない

全てのモノがネットとつながる――

近年、IOTに対する注目が非常に高まっている。しかし、企業の取り組みやスタンスは様々。今後の産業・生活を大きく変えるであろうIOT。その先にある時代を見誤れば、企業は存亡の危機に瀕しかけない。我々はIOTにどう向き合えばよいのだろうか。

IOTは、一種の産業革命求められる新たな発想

「現在語られているIOTの文脈は、大きく二つあります。一つは、生産性向上に関するもの、もう一つは、新たなサービスの創造です」

こう語るのは、NTTデータグループのコンサルティングカンパニー・クニエのマネージングディレクター・原田龍一氏だ。「欧米企業が、IOTによる新たなサービスを構想しているのに対し、日本企業は生産ラインの最適化や人の作業効率の向上など、現場の改善を志向するものが主流。つまり、IOTを手段とした従来の延長線でしか考えてい

IOT時代の経営層が考慮すべき改革のチェックポイント

- スピードをKPI化しているか
- ビジネスマネジメント開発に投資しているか
- 戦略的に外部パートナーと連携しているか
- 組織横断的な活動を評価しているか。
- 顧客の定義を見直しているか

です。ビジネスの中心はもはやモノではなく、サービスなのです。これは、一種の産業革命。自社の新しい強みを作り出さなければ革命の波に飲み込まれてしまいます。」(原田氏)

従来の常識に囚われず、いかに新たなサービスを発想し、構想できるか――数年後の勝者と敗者を分かつ重大なカギとなりそうだ。

イノベーションの第一歩は経営の改革から

「新しいサービスの創造には、従来の枠組みとは違う枠組み、つまり新しい

ビジネスモデルが必要です。自前のリソースにこだわらず外部パートナーと積極的に連携することも必要です

その解析に基づけば、個別のニーズに細部まで対応した高次のサービスが

を重要視するあまり、事業化に慎重になる傾向がありますが、こだわりを捨ててスピードを最優先することも求められます。そのためには、経営層

が自ら変革し、リスクに挑んでいかなければなりません。」(原田氏)

つまり、IOT時代は事業とITが両輪となって新しいサービスを生み出すことが求められる。

「現状では、IT部門自体が、開発予算やセキュリティ問題を盾にイノベーションを阻む抵抗勢力の一つになってしまっている状況が散見されます。

IT部門も経営側と同じレベルで変革し、経営・事業に貢献する強い意識とコミュニケーションが求められます。当社が評価されているのは、事業・経営とITの双方に強いこと、ビジネスモデル検討などもお客様と共に考え、行動することにあります。」(原田氏)

株式会社クニエ マネージングディレクター 原田 龍一
株式会社クニエ マネージングディレクター
外資系コンサルティングファームを経て現職。
20年来多岐に渡る業種においてITの利活用推進やITマネジメント領域の課題解決支援を中心に活動。近年は事業に直接貢献するIT機能や組織変革支援を多く手掛けている。
クニエはNTTデータグループのビジネスコンサルティング会社です。様々な変革に挑戦されるお客様のパートナーとして、高度な専門性と経験を有するプロフェッショナルが幅広いソリューションを提供し、お客様の変革の実現をグローバルベースで推進致します。